

## 交通シミュレーション委員会第2部会第2回議事録

日 時：平成 14 年 4 月 3 日（水）17：30～

場 所：尚友会館 7 F（C 会議室）

出席者：宇野 伸宏〔京都大学大学院〕

：堀口 良太〔(株)アイ・トランスポート・ラボ〕

：江藤 和昭〔(株)オリエンタルコンサルタンツ〕

：花房 比佐友〔(株)熊谷組〕

：安藤 悟〔(株)千代田コンサルタント〕

：赤田 浩志〔(株)都市交通計画研究所〕

：福島 賢一〔(株)福山コンサルタント〕

：趙 勝川〔(財)計量計画研究所〕

：加藤 優子〔警視庁〕

：飯田 祐三〔中央復建コンサルタンツ(株)〕

：小根山 裕之〔東京大学〕（敬称略、名簿順）

委員会資料：2 - 1 交通シミュレーション委員会第2部会第1回議事録

2 - 2 交通シミュレーション研究委員会 第2部会第2回メモ（宇野）

2 - 3 シミュレーションモデル適用事例の収集状況について（小根山）

その他 THE URBAN TRANSPORTATION MONITOR,

FEBRUARY 8, 2002（抜粋）（趙）

出席者席次表（配布）

### 1. 第2回議事項目

前回議事録の確認

参加者紹介

これまでの経過説明

第2部会の進め方、タスク（案）について

意見交換

次回開催について

### 2. これまでの経過説明（部会長、委員）

嵐山WS、箱根WS及び運営幹事会の3回の会合を通して、部会間のテーマ調整、本部

会のタスクの明確化を行ってきた。その中で交通シミュレーション適用事例の収集・整理を本部会のタスクとして提案しており、これを本部会のタスクとして考えている。シミュレーション適用マニュアルについては、本部会のみで作成せずに部会横断的・タスクフォース型で対応し、本部会の成果をマニュアルに盛り込んでいく。

### 3. 第2部会の進め方、タスク(案)について

#### 第2部会の進め方

シミュレーション利用促進のためには、シミュレーションの地位向上、情報不足に起因するシミュレーション利用に関わる参入障壁の緩和、シミュレーション利用のメリットと適用限界の明示などが必要ではないだろうか。また、シミュレーション適用時に必要となる基礎知識(交通工学・計画等)を整理していくことを考えてもよいのでは。

適用事例の収集・整理・分析をとおして、シミュレータの開発者(研究者)、利用者、発注者及び市民にとって有用な情報発信を目指すことを本部会の大きなねらいとして考えている。

適用事例は体系的な視点をもちつつ、広く収集する必要がある。シミュレーションの適用限界を示すため、可能であるか議論は必要だが不適切な適用事例(失敗事例)の収集も試みてはどうだろうか。

適用事例の収集については、適用事例を自主的に報告いただける **incentive** を打ち出すことが重要であり、本委員会の取り組みに関する情報発信が必要である。

収集した情報は体系的に整理し、クリアリングハウスへの掲示を考えているが、各モデルの宣伝色を強めてもいいのではないかと。掲載されたものについては学会から推奨して頂けるよう働きかけるとか。

こうした情報の入手は利用者だけでなく、発注者側も期待していると思われる。国内でこうした活動を行っていることを積極的にアピールすることは有用だと考える。

他の部会の動きをみた感じとしては、本部会で適用事例を収集・整理することは意味あるものと理解している。

#### 第2部会のタスク(案)について(部会長より説明)

事例収集における調査項目の確認、部会参加者が収集可能なシミュレーション適用事例の有無及び公開の可否に関する調査(次回部会までの宿題)

公開可の事例について事例シートに順次整理(今年度上半期)

収集された適用事例をどのような視点から整理するか検討(今年度下半期)

次年度のタスクとなるかもしれないが、既存の手法との対比によりシミュレーション適

用のメリット・デメリットが浮かび上がるとりまとめを行いたい。例えば、代表的な適用事例について、シミュレーションを用いない場合、どのようなデータ・手法を用いてどの程度の結果が導き出せるかなど。

事例収集については、先行的に 50 事例ほど収集されているので、これは取り込んでいく。今後、データシートの書式を現在のままとするか、追加すべき調査項目があるかを今回、次回で決定したい。

#### 4. 意見交換

活動方針及びタスクについて、ご意見・アイデアを頂きたい。また、適用事例シートの項目について何かご意見があれば併せてお願いしたい。

資料 2 - 3 の P.1、P.2 で事例の数が異なっているが、これは公開できなかったものが 3 事例あったため。

現在の適用事例シートは基本的にはオーバービューできる程度として作成している。また、記入者の負担なども踏まえて現在の項目としている。

事例シートの調査項目は必要最低限のもので良いと思うが、いくつか代表的な事例については、別途、掘り下げて調査しても良いのではないか。また、事例収集については他の部会の方にも働きかけていったほうがよい。

代表的な事例を掘り下げて検討することは、シミュレーションに不慣れな方にとっても有用だと考える。

現在の事例シートではシミュレーションを適用した流れが把握できない。代表的な事例については、その辺りも把握できるようにしたい。

適用事例の収集はシミュレーション利用促進に向けた入口の情報として作成する。代表的な事例についてはシミュレーション利用のプロセス、データ作成方法、失敗談など詳しい情報を整理していけばよいのではないか。

オペレータ側からみると、データの取り扱い方法が気になる。調査を行ったのであればどのような調査を行ったのか、既存データを活用したのであればどのようなデータ加工を行ったかなど。オペレータにとってこういう項目が事例シートにあったほうが好ましいと思う。

適用マニュアルはオペレータを対象としているのか？

オペレータだけではなく、発注者も大きな対象ではないか。適用マニュアルについては、現在、目次作成の作業が進んでおり、可能であれば次回あたりにお見せしたい。

現在のシミュレーションは開発者の方のローカルルールで使用されているような感があ

る。どの程度の作業が発生するのか、適用機能（得意、不得意）など相互に承認しあうことに意味があるのでは。また、インセンティブを打ち出すことは重要であり、代表的な事例の抽出という意味では、賞を与えるなど適正な事例として承認していくことも考えられる。

賞に関しては幹事会でも意見が出ており、インセンティブの打ち出しという点ではそれも必要かなと考えている。但し、どのような形で評価するかが難しい。

適用事例について、業務の実施期間を追加しては。

現在の事例シートでは、例えば入力データについて1時間単位とある場合、シミュレーションの制約なのか、事例の制約なのか把握できない。各モデルのスペック表が必要ではないか。

第1部会の内容がそれに対応できると考えており、情報を共有していくことが必要。ミニマム情報としては、現在の事例シートで十分な感じもする。やはり、その中からいくつか掘り下げていくことが重要であり、そのためには数多くの事例収集が必要となる。どのような検討にどのモデルを使用したか最も知りたい。また、現況再現はどのレベルでOKをもらったかも気になる。業務費用も大枠でよいので知りたい（マニュアルには掲載できないと思うが）

費用については公に出すことは難しいが、第2部会の中では出してもよいのでは。

金額そのものというより、期間、人工などを出せばよいのでは。

深く掘り下げていく場合には、苦労話、失敗談が知りたい。

代表事例について掘り下げていく場合には、ペーパーによる回答だけでなく、勉強会として担当者にお越し頂き、直接お話しして頂いた方が良いかも。

公開できない事例についても数だけは把握しておいたほうがよい。

コストなど、追加すべき項目があれば次回再度検討する。

## 5. 次回開催について

第3回の内容について

タスク(案)の1)、2)の部分はある程度整理したい

### 次回日程

ゴールデンウィーク明けを考えている（調整がつけば京都で）